

受験番号	
------	--

〔 I 〕

問1

who was about to start school

問2

男だからこうすべき、女だからこうすべき、ということ。

問3

「女性は数字（数学）が苦手だ」という偏見を意識させられると、女性は数学のテストで低い点数をとる傾向にあること。

問4 4

問5 (i) at (ii) of (iii) in (iv) to

問6 1 4

計	点
---	---

受験番号	
------	--

〔Ⅱ〕

問1 エ)

問2 イ)

問3

私	の	心	身	を	含	め	た	万	物	の	変	化	が	倍	速	に	な	る	と
、	私	の	心	身	の	変	化	速	度	と	そ	の	他	の	事	物	の	変	化
速	度	の	比	率	が	以	前	と	変	わ	ら	ず	、	何	も	起	こ	ら	な
い	の	と	同	じ	だ	か	ら	。											

問4 (ア) 2 (イ) 1 (ウ) 2

(エ) 4 (オ) 1

計	
	点

受験番号	
------	--

〔Ⅲ〕

問1 (a) ○ (b) × (c) ○ (d) × (e) ×

問2

1) 老年人口割合が生産年齢人口割合を上回る年	2) 2070年の福島県の老年人口の推定値
2087 年	47.1 万人

1) の計算式

老年人口割合の式が $y = 0.277x + 29.0$ 、生産年齢人口割合の式が $y = -0.191x + 59.9$ であるので
老年人口割合が生産年齢人口割合を超えるのは $0.277x + 29.0 > -0.191x + 59.9$ より $0.468x > 30.9$ で
 $x > 66.025$ となる。小数点以下を切り上げると67年後となる。
 $2020 + 67 = 2087$ 年より、2087年に老年人口割合が生産年齢人口割合を上回ることとなる。
(なお、 $>$ の不等号は $=$ や \geq でも可とする。)

2) の計算式

2020年から2070年までは50年間である。
この50年後の老年人口割合を求めると、問いの式より $y = 0.277 \times 50 + 29.0 = 42.85$ となり42.85%となる。
2070年の福島県の総人口が110万人であることより、老年人口は110万人の42.58%であるので、
 $110 \times 0.4285 = 47.135$ となり小数第二位を四捨五入すると47.1万人となる。

問3

①	②	③	④	⑤
散布図	直線上	相関	差異	2倍
⑥	⑦			
高齢者	正			

計	点
---	---